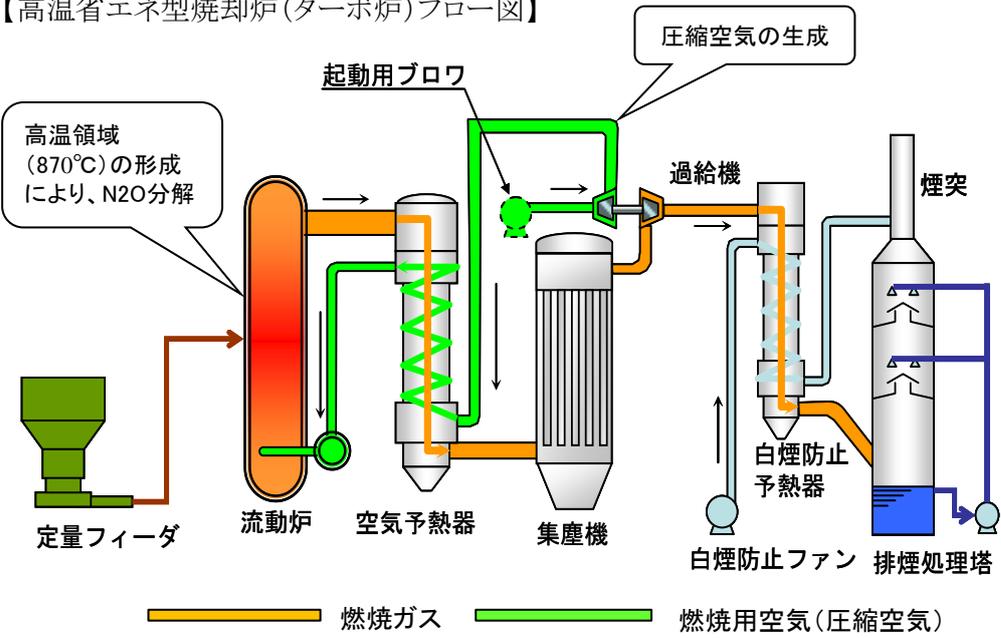


平成27年10月23日開催:平成27年度第3回技術管理委員会

審議事項

○実用化した技術の事後評価

研究テーマ名	高温省エネ型焼却炉（ターボ炉）の導入後事後評価
検証(研究)形態	実用技術の事後評価
事業者	三機工業(株)
所管部署	計画調整部 技術開発課
検証期間	平成26年8月1日～平成27年3月14日
目的・特徴	<p>(目的) 浅川水再生センターに導入されたターボ型流動焼却炉について、当初の研究目標が達成できることを確認する。</p> <p>(特徴)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・流動焼却炉から排出される燃焼排ガスを有効利用し、過給機（ターボチャージャー）を駆動させ、圧縮空気を生成 ・圧縮空気を燃焼空気として炉に供給し、従来よりも高い温度領域で燃焼し、一酸化二窒素（N₂O）の分解を促進 ・压力下により排ガスのボリュームが減少し、炉本体から集塵機までがコンパクトになり、放熱量が減少し、補助燃料使用量の削減が可能 ・圧縮空気を利用することで、従来型流動焼却炉で必要な流動ブロア、誘引ファンが不要となり、大幅な使用電力の削減が可能 <p>【高温省エネ型焼却炉(ターボ炉)フロー図】</p>  <p>高温領域（870℃）の形成により、N₂O分解</p> <p>起動用ブロワ</p> <p>圧縮空気の生成</p> <p>過給機</p> <p>煙突</p> <p>白煙防止予熱器</p> <p>白煙防止ファン</p> <p>排煙処理塔</p> <p>定量フィーダ</p> <p>流動炉</p> <p>空気予熱器</p> <p>集塵機</p> <p>燃焼ガス</p> <p>燃焼用空気(圧縮空気)</p>
当初研究時目標	<p>(目標1) N₂O由来の温室効果ガス削減効果 削減率50%以上(第一世代型焼却炉に対して)</p> <p>(目標2) 電力由来の温室効果ガス削減効果 削減率40%以上(第一世代型焼却炉に対して)</p> <p>(目標3) 燃料由来の温室効果ガス削減効果 削減率10%以上(第一世代型焼却炉に対して)</p>
結果	本技術は、上記の目標をすべて達成した。
備考	なお、事後評価の確認結果より、第2.1世代型焼却炉の基準を達成していることも併せて確認した。